SKYMENU 活用授業 実践レポート

名前	松下 豊	学校名	赤磐市立山陽西小学校
実施学年	5年生	教　科	社会科
単元名	日本の工業生産と貿易・運輸 「おもな輸出品と輸入品」		

≪学びを深めたいポイント≫

本時の学習は，日本の主な輸出入品について複数の資料を分析したり，関連付けたりして，日本の主な輸出入品の種類とその相手先，輸出入の変化に着目し，日本の貿易の特色を捉えていくことが目的である。社会科では，「社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養うこと」が求められている。しかし，本学級の児童は学力差が非常に大きく，児童によっては複数の資料を同時に扱うことが困難で学びの土台に乗れないことが考えられる。そこで，輸出についての資料を分析するチームと輸入についての資料を分析するチームに分けることで，児童にとっての課題を限定して取り組みやすくすると同時に，資料を読み取る力を高めることができるようにする。また，その中で「気づきメモ」「発表ノート」を活用することで，資料からの気づきを共有したり，社会的事象の特色について考えたことを適切に表現したりすることができるようにする。

≪SKYMENU 活用のポイント≫

本実践では，「気づきメモ」と「発表ノート」を活用する。

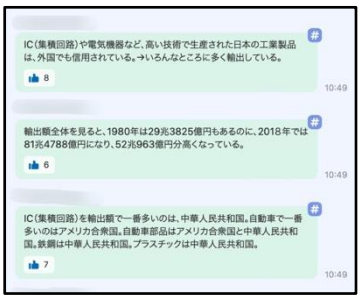
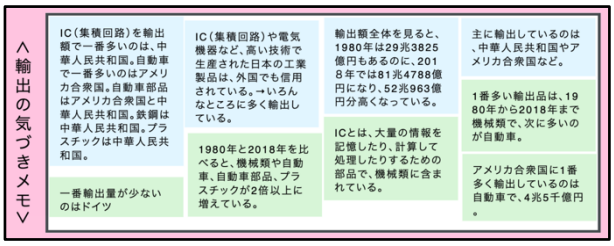
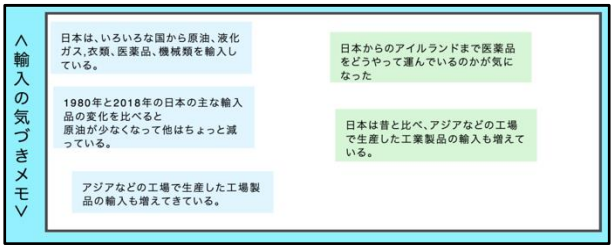
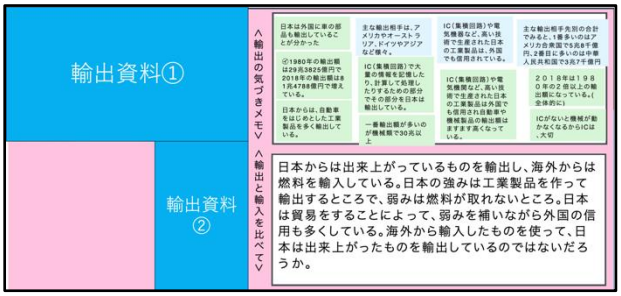
気づきメモ

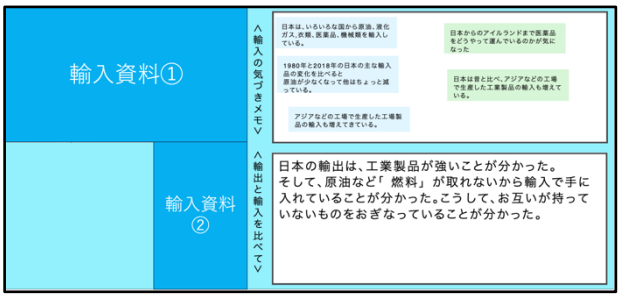
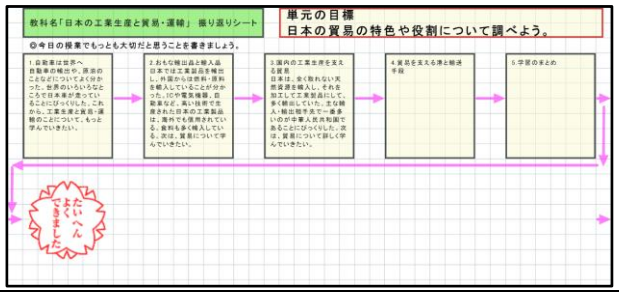
・家庭学習で資料を分析し，分かったことを「気づきメモ」に書き残しておくことで，学びの土台をつくる。
・気づきをグループで共有したり，互いに「いいね」をつけたりすることで，自分の気づきを広げたり深めたりできるようにする。

発表ノート

・気づきを一度発表ノートに整理することで，資料から何が分かるのかを明らかにできるようにする。
・発表ノートを色分けしておくことで，共有の際に視覚的に区別しやすくする。
・発表ノートに自分の考え書かせることで，考えたことを適切に表現する力を養う。
・発表ノートで作成した OPP（One Page Portfolio）シートを活用して学習を振り返ることで，学習の理解を深めたり学習に対する姿勢を評価したりすることができるようにする。

≪実践内容≫

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1.本時の課題をつかむ。 2.輸出入についての資料を分析して，気づいたことを共有する。	資料をもとに日本の輸出・輸入の特色を調べよう。 ・気づきメモのグループに自分の気づきを共有する。 ・友達の気づきで，自分にはないものがあれば「いいね」を押す。  	・家庭学習で資料を分析し，気づきメモに自分の気づきを残させておくことで，授業では気づきの共有から始められるようにする。 ・「いいね」を押しながら友達の気づきを見ることで考えを広げることができるようにする。
展開	3.自分の気づきや友達の気づきを整理する。 4.資料から分かったことを全体で伝え合う。 5.輸出と輸入を比較し，日本の貿易の特色を捉える。	・自分の気づきやグループに共有された友達の気づきを発表ノートにコピーし，整理する。 ・発表ノートを提出箱に提出し，互いに見合ったり，伝え合ったりする。   	・気づきを一度発表ノートに整理することで，資料から何が分かるのかを明らかにしたり，自分の気づきを広げたりすることができるようにする。 ・発表ノートを色分けしておくことで，共有の際に視覚的に分かりやすくする。
まとめ	6.日本の貿易の特色を自分なりの言葉でまとめる。	・輸出入を比較して分かった日本の貿易の特色について，発表ノートに自分なりにまとめる。  	・発表ノートに自分の考えを書くことで，考えたことを適切に表現する力を養う。

	7.学習を振り返る。	 輸入資料① 輸入資料② ＜輸入の気づきメモ＞ 日本は、いろいろな国から原油、液化ガス、衣類、医薬品、機械類を輸入している。 1980年と2018年の日本の主な輸入品の変化を比べると原油が少なくなって他はちょっと減っている。 アジアなどの工場で生産した工場製品の輸入も増えてきている。 日本からのアイルランドまで医薬品をどうやって運んでいるのかが気になった 日本は昔と比べ、アジアなどの工場で生産した工業製品の輸入も増えている。 ＜輸出と輸入を比べて＞ 日本の輸出は、工業製品が強いことが分かった。 そして、原油など「 燃料」 が取れないから輸入で手に入れていることが分かった。こうして、お互いが持っていないものをおぎなっていることが分かった。 ・発表ノートで作成したOPPシートを配付しておき，学習の振り返りを記述・提出させる。 	・OPP シートに振り返りを書かせることで，学習の理解を深めたり学習に対する姿勢を評価したりすることができるようにする。

≪実践を振り返って≫

本実践は，社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養うこと（学習指導要領 社会編より）を「気づきメモ」と「発表ノート」の活用によって達成することをねらいとした。

まず，「気づきメモ」については，資料の分析と共有のツールとして活用した。資料分析は家庭学習とすることで，じっくりと時間をかけて資料と向き合わせ，その中での気づきを蓄積させることができた。また，授業では家庭学習で見つけた気づきの共有から始めることができたため，今回の活用方法は授業のスリム化にも寄与することが明らかとなった。さらに，気づきを共有した児童は，自分にはない友達の気づきに「いいね」をつけたり，自分とは違う資料についての気づきを見合ったりすることで輸出入の特色について考えを広げていた。このことから，「気づきメモ」を活用することで児童は資料を多角的に分析し，自分の考えをつくりあげることができたと思われる。

次に，「発表ノート」については，主に自分が考えたことを表現するワークシート，そして自己評価のための OPP シートとして活用した。ワークシートは，自分の気づきや友達の気づきを残せるようにしておくことで，気づきメモの言葉を参考にしながら考えを書こうとしている児童も見られた。気づき（気づきメモ）→考察→表現（発表ノート）の流れをつくれたことが，本時でねらいとしていた考えたことを適切に表現することに繋がったのではないだろうか。OPP シートの活用は，教師にとって児童が本時で何を学んだか，どのように感じたかを見取ることに非常に有効であった。また，児童にとっても学習の見通しをもてたり，振り返る習慣がついたりと少しずつよい効果が出始めている。

今後もこの実践を積み重ねる中で，「気づきメモ」「発表ノート」の効果的な活用方法を探っていきたい。